

主体的な参画を促す授業実践の試み

附属教育実践総合センター・太田佳光

1、授業の基本情報

- ・科目区分：教科又は教職に関する科目
- ・授業科目名：教育実践研究Ⅰ（教育問題）
- ・担当教員名：太田佳光
- ・登録学生数：9名

2、授業内容・授業評価

・授業内容

本授業で目指したのは、①レクチャーを出来るだけ少なくし、自らが考える演習的な時間を多くとること。②グループ活動を中心に具体的な対応策を考えること、である。

具体的には、逸脱やいじめなどの問題を実際の事例を中心に提示し、その対応について实际的に考察することとし、あえて、正解（妥当な対応）を示すことをせず、自分の考え方を確立することを、最も重要なねらいとしてきた。

教育現場での様々な問題事例は、一応の方針はあるものの、それぞれのケースに応じて対応が求められるためである。

本年度は以下の二つの事例に基づいて授業を実施した。

第一事例は、授業者が実際に関わった「いじめ事例」である。小学校5年生の女兒が、同じクラス内の3名の女兒から、言葉によるいやがらせや、暴力を受け、結果的に不登校ぎみになった事例である。担任教師の対応や、学校としての対応等の解決策を具体的に立てることを課題として、授業を展開した。補助資料として、いじめ生起の社会的考察を行った論文や、いじめに関する新聞報道、いじめ防止マニュアルなどを使用した。

第二事例は、やはり授業者が実際に調査を行った、女子中学生の逸脱行動の事例である。ある中学に転校してきた逸脱傾向のある女子生徒を、どのように指導・支援するのかを、やはり担任教師、生徒指導、養護教諭の立場から考えさせた。補助資料として、逸脱論を俯瞰した論分を使用した。

なお、例年取り組んでいる授業の工夫として、「大福帳」というA4版の出席カードを使用している。「大福帳」には、15回分のコメント記入欄

が設けられ、毎回授業終了後に、授業への感想や質問などを学生が記入し、次回授業時に学生に返却するものである。この出席カードの使用により、授業時に学生がどのようなことを考えているかを知ることができ、次回の授業にその内容を生かすことが可能となる。また、学生の質問などに個別に対応できるため、より細やかな指導が可能となると言えよう。

また、本学部のディプロマ・ポリシーとの関連では、「教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。」に、主として関わる。

・授業評価

授業終了時に、学生に対して本授業への評価を「大福帳」に記載してもらった。以下、学生たちの、評価をいくつか示したい。

「逸脱行動をする子に対しても、だめな子とラベリングするのではなく、良い方向に考えて接するべきだと思った。色々と考えの幅を広げられる授業でした。」

「一人ひとり状況が違うので、個々にあった対応を見つけていくことが大切だと、授業を通して考えることができました。」

以上、受講生からは、ねらいとした、マニュアルに頼らない自主的な課題解決への姿勢を見ることが出来た。課題としては、妥当な対応を示さないことが、やや混乱を招いたきらいがあった。そのつど、実際の事例の解決の方向性を示したが、よりの確かな指導が必要かと感じた。

3、授業時間外の学習の促進

本授業は、グループによる演習形式をとったため、グループの成員（3名）による授業時間外学習（主に、授業における話し合いを通じての、解決策の策定）を促進することとなった。特に、授業時間内に発表資料が作成出来ない時は、各グループでの自主的な時間外学習を課した。また、授業時には、できうる限りレクチャーの部分を割愛したため、いじめ問題や逸脱論の補助資料を、予習・復習として学習することを促進した。